

# 第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 むかしばなしをたのしもう（東京書籍）

2 単元目標

○昔話に興味をもって読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりすることを楽しもうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

○昔話の読み聞かせを聞いたり自分で読んだりすることができる。

【読むこと カ】

○昔話を聞いたり読んだりして親しみ、好きなところを友だちに紹介することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)】

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
○昔話に興味をもって読み聞かせを聞いたり、自分で読んだりすることを楽しもうとしている。	○昔話の中から読みたいものを選んで、自分で読んだり読み聞かせを聞いたりしている。(カ)	○昔話を聞いたり読んだりして親しみ、好きなところを友だちに伝えている。(ア【ア】)

4 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「むかしばなしハウス」を作って、自分の選んだ昔話の好きなところを紹介し合う「すきなおはなしはっぴょうかい」を位置付ける。「むかしばなしハウス」には、題名、好きなところ、好きな場面の絵、思ったことを書かせる。

紹介するために作った「むかしばなしハウス」や本を見せながら「すきなおはなしはっぴょうかい」を行うことにより、好きな昔話の本を選んで、自分の思いや考えを意欲的に発表し合うことができると思う。

5 情報活用能力とのかかわり

「大田市小・中学校情報活用能力指導体系表」における【感想の書き方】の能力を深める学習である。

6 単元について

(1) 単元構成について

本単元は学習指導要領第1学年及び第2学年の次の領域を受けて設定されている。

【C 読むこと】

(1) カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

(1) ア(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

昔話は、「むかしむかし、あるところに」などの言葉で語り始められる空想的な物語である。時代の変化により、児童が昔話を聞いたり読んだりする機会は少なくなっている。

本教材「むかしばなしをたのしもう」は、昔話の読み聞かせを聞いたり自分で読んだりしておもしろかったことを友達に紹介する活動を通して、児童が様々な昔話に触れる楽しさを実感させることをねらいとしている。伝統的な言語活動に親しむ第一歩として、児童が楽しんで取り組める教材である。

まず、語り継がれてきた昔話の読み聞かせを聞くことで、児童は昔話特有の話の展開のおもしろさや、独特の言い回し、語り口調に気付き、関心を示すであろう。そしてたくさんの昔話の中から読み

たい話を選んで自分で読むことで、昔話の楽しさや魅力に気付くことができるであろう。

また、読んだ昔話の好きなところや思ったことを発表し合う「おはなしはっぴょうかい」を取り入れることで、さらに昔話を読みたいという意欲につながるようにしたい。

## (2) 児童について

略

## (3) 指導方法について

指導にあたっては、児童が興味をもちながら昔話を楽しみ、意欲的に「おはなしはっぴょうかい」に取り組むことができるように、次のように進めていきたい。

単元全体を通して、児童ができるだけたくさんの昔話に親しむことができるよう、読書環境を整えるようにする。学校図書館や公共図書館、他校の協力を得るなどして、学校司書を中心に図書の準備を行う。教師による読み聞かせの時間をしっかりとったり、教室前廊下に昔話コーナーを作ったりし、いつでも昔話にふれることができるようにしたい。

第一次では、挿絵をもとに自分が知っている昔話について話す活動を取り入れる。あわせて学校司書によるブックトークを行うことで、昔話がどのようなものであるか知らせるようにし、いくつかの昔話を紹介することで読書意欲を高めたい。

また、学習スケジュールを示すことで、見通しをもって学習に取り組めるようにしたい。

第二次では、出合った昔話の中から、気に入った昔話を選び、「むかしばなしハウス」を作る活動を行う。たくさんの昔話に出あえるように、本を読むための時間は十分に確保したい。同じ昔話をいろいろなシリーズで準備することで、児童が自分の思いにあわせて選べるようにしたり、読む力に合った本を提供したりできるようにしたい。

本時は、「むかしばなしハウス」について知り、読み聞かせを聞いた「花さかじい」のお話のすきなところと思ったことを書く活動を行う。「むかしばなしハウス」の見本を示したり、読み聞かせしてもらった共通の題材で作成したりすることで、手順や書くことについて理解できるようにしたい。

その際、大事などころだけ、できるだけ短く書くという力が必要となる。11月に学習した「いろいろなふね」では、それぞれの船の「役目」「つくり」「できること」について、付箋を使ってカードにまとめる学習をしている。その中で、カードを書く際には、大事などころだけを選んだり、文末を変えたりして短く書くスキルを学習している。その学習を想起させ、書き方のポイントをおさえるようにしたい。

また、児童が自分の力で、すきなところを選んで書けるように、挿絵を掲示する。そうすることで話の展開や場面を思い出せるようにしたい。挿絵だけでは書くことが難しい児童については、本を見せながら内容を確認し、教師と対話する中ですきなところを見つけ、文章に表すことができるようにしたい。

第三次では、「すきなおはなしはっぴょうかい」を行う。紹介する本を見せたり、「むかしばなしハウス」をもとにしたりして、選んだ昔話のすきなところを、自分の言葉で伝えることができるようにする。その際、話型を示し、「むかしばなしハウス」を効果的に使って伝えられるようにしておく。

友達の紹介を聞いた後に感想を述べたり、その昔話を読んで感想を伝えたりする時間をとるようにしたい。学習後も「むかしばなしハウス」を教室に置き、友達が紹介した昔話の中から興味をもった本を手にとって読めるようにすることで、さらに読書意欲が高まるようにする。

7 単元指導計画及び評価計画（全6時間 本時 2／6時間）

次	時間	学習活動	評価			教師の支援 ○司書教諭 ●学校司書との連携	
			関	読	言		評価規準 評価方法（ ）
一	1	・学習の見通しをもつ。 ○挿絵にどんな昔話があるか探しながら昔話を読むことへの意欲をもつ。	並  行  読  書	○		・挿絵の登場人物について思ったことを伝えようとしている。 (発言・観察)	●図書資料の準備 ●ブックトーク
二	2 本 時	○「花さかじい」の読み聞かせを聞き、好きなどころを発表する。 ・「むかしばなしハウス」の説明を聞く。 ・好きなどころ、読んで思ったことを発表する。			○	・「花さかじい」の内容をつかみ、お話のすきなどころを見つけ、思ったことを書いている。 (カード)	●図書資料の準備 ●読み聞かせ ○むかしばなしハウスのモデル提示 ○カードの書き方のポイント確認
	3	○昔話の好きなどころを見つけながら読む。			○	・好きなどころについて感想をもちながら読んでいる。 (発言・観察)	●図書資料の準備 ●選書のアドバイス
	4 5	○むかしばなしハウスを作成する。 ・題名、作者（再話者）を書く。 ・好きなどころ、お話を読んで思ったことを書く。 ・好きな場面の絵を描く。			○	・選んだ昔話の内容をつかみ、お話のすきなどころや、読んで思ったことについて、自分の言葉で書いている。 (カード・観察)	○●読む力に合わせた本の提供
三	6	○自分が選んだ昔話の好きなどころを紹介し合う。			○	・好きなどころが伝わるように紹介している。(発言・観察)	

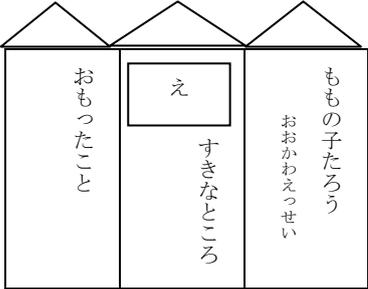
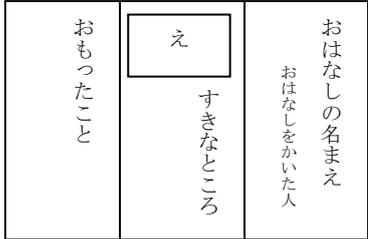
8 本時 (2 / 6 時間)

(1) ねらい

昔話「花さかじい」のすきなところを見つけ、思ったことをカードに書くことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

(2) 展開

	学習活動	教師 (T1) の支援	司書教諭 (T2) の支援	学校司書の支援
3分	1 本時のめあてをとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">おはなしのすきなところを見つけよう</div>	・本時のめあてを確認し、学習意欲を高める。		
7分	2 むかしばなしハウスについて知る。 		・「むかしばなしハウス」(ももの子たろう)のモデルを提示し、関心を高める。 ・「大事なことだけ」「文の終わりを変えて短く」書くことを確認する。 ・読み聞かせの前に、すきなところを見つけながら聞くことを確認する。	
10分	3 「花さかじい」の読み聞かせを聞く。			・なるべく児童を近くに集めて、みんなと一緒に楽しめる場を作る。
20分	4 「花さかじい」のお話について、好きなお話のところや思ったことを見つける。 ①カードに書く。 ②発表する。 	・カードを配り、カードの書き方のポイントを再度確認する。  ・絵本を見せながら対話し、すきなお話のところや思ったことを文章化できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">☆「花さかじい」の話の内容をつかみ、すきなお話のところを見つけ、思ったことを書いている。(カード)</div>	・児童の発言内容に合わせて、板書用カードを完成させる。	・本の挿絵を掲示し、話の内容を想起できるようにする。
5分	5 本時の振り返りをする。	・次時から実際に昔話を読んで「むかしばなしハウス」を作っていくことを確認し、意欲を高める。		

### (3) 評価

評価	児童の具体例・支援
十分満足できると判断される児童の姿	「花さかじい」の内容をつかみ、話のすきなところを見つけ、思ったことと関連付けてカードに書いている。
おおむね満足できると判断される児童の姿	「花さかじい」の内容をつかみ、話のすきなところを見つけ、思ったことをカードに書いている。
支援を要する児童への指導の手立て	本の挿絵を見せたり、話の内容を確認したりしながら、教師と対話する中で、すきなところや思ったことを文章化できるようにする。

### (4) 研究の視点

- 本の挿絵を掲示したり、本を見せながら対話したりしたことは、話の内容を想起させ、好きなところを見つけるための手立てとして有効であったか。
- 「むかしばなしハウス」のモデルを示したことは、好きなところや思ったことをカードに書くための手立てとして有効であったか。